

小中高の連携を意図した表現運動・ダンスの授業研究

研究組織：地域連携事業代表者 茅野 理子 事業推進協力者 栃木県教育委員会スポーツ振興課
所属・職・氏名：教育学部 教授 茅野 理子

1. 事業の目的・意義

中学校におけるダンスの必修化が今年度から完全実施された。それを受けて、マスコミは、ストリートダンスが必修化になると喧伝していた時期がある。しかし、学校体育で扱うダンスの内容は、創作ダンス、現代的なリズムのダンス、フォークダンスの主要な3つから成り、ストリートダンスだけではない。

一方、指導者側の問題点として、ダンスの指導に苦手意識を持ち敬遠されがちであるということが以前から指摘されている。

そこで、改めてダンスの教育的意義を問い直し、そのために各段階で何を、どのように指導していくべきかについて提言し、必修化に向けた教育プログラムの開発を行うことを目的として、今年度は、公開授業等で問題提起を行うこととする。

2. 研究方法

(1) 質問紙調査

郵送法により、栃木県におけるダンス指導の実態調査を行い、実施上の課題を検討する。

- ① 調査期日：平成24年8月～9月
- ② 調査対象：栃木県公立中学校161校
県立高等学校47校（男子校を除く）
- ③ 調査内容：対象者属性・ダンスに関する年間指導計画・ダンス及びダンス必修化についての考え
- ④ 回収率：中学校63%（102校）
高校70%（33校）

(2) 公開授業と研究発表会

自主的研修団体である栃木県女子体育連盟との提携、栃木県教育委員会の後援により、大学での公開授業（教育学部専攻専門科目）並びに小中高の連携を意図した事例報告を通して問題提起を行う。なお、そのために小中高教員とワーキンググ

ループを組織し、事前に2回協議を行った。

3. 事業の進展状況

- 5月～9月 ワーキンググループ及び実態調査
- 10月 公開授業と研究発表
- 11月～翌年3月 報告書作成

4. 事業内容とその成果

(1) 本県学校体育におけるダンス指導の現状と課題について－アンケート調査から－

回答者の性別は、中学校では男性57名、女性45名であり、高校では男性9名、女性24名であった。中学校で男性回答者が多い要因には、女性教員が少ないという教員構成を反映していることが考えられる。

栃木県の実態調査からは、以下のようなことが考察された。

1) 今年実施するダンスの種類と生徒にさせたい種類

今年度ダンスの授業を実施するかについては、中学校では、非該当1校を除き、すべての学校で行うとの回答を得た。これに比して、高校では、行う28校、行わない4校、非該当1校であった。

中学校で実施するダンスの種類（図1）では、3つの内容をすべて行う学校が最も多く、新学習指導要領にそった内容構成であることが認められる。

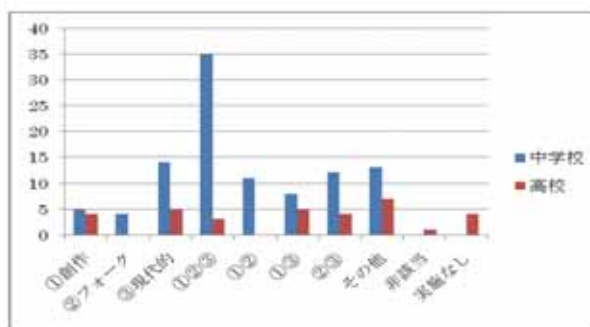


図1 今年度実施するダンスの種類（校）

しかし、生徒にさせたいダンスの種類（図2）では、現代的なリズムのダンスが最も多い。ストリートダンスの流行を反映した結果であるが、そのために現場の教員が技能の習得に苦勞しているという状況も報告されている。何を、どのように教えるのか、「授業づくり」の問題は、今後の重要な課題である。

2) ダンスを体育の中で重視しているか

図3に示されるように、中学、高校ともに「他領域と変わらない」とする意見が最も多かった。

「重視していない」と回答した理由に着目してみると、中学校では、「自分に体験がない」が5名で最も多く、続いて、「体力づくりにならない」2名、「他領域に比べ価値がない」1名、「その他（必修化にする必要があったのかまだ疑問に思っている）」1名となっている。一方、高校では「自分に体験がない」「体力づくりにならない」がともに1名である。

3) 指導の際の障害

指導の際に障害になること（表1）については、中学、高校ともに、「生徒が動かない」とこと「自分で動いてみせられない」に集中している。このような問題は長く指摘されていることであり、明確で普遍的な学習内容（指導内容）の提示は、必修化に伴って、喫緊の重要課題となっている。

4) ダンスの教材研究・指導法研修の有無

教材研究・指導法研修の有無について尋ねると（図4）、中学校では「しているが不十分」が最も多く、34%であった。高校で「とくに何もしない」

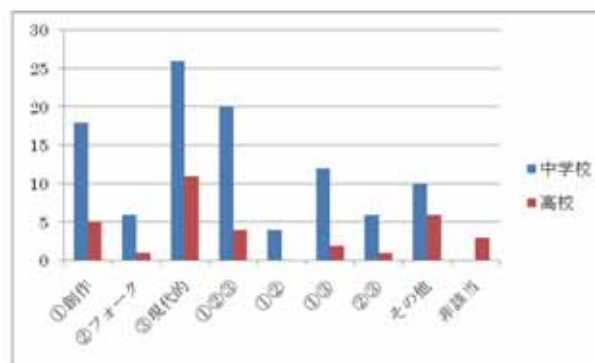


図2 生徒にさせたいダンスの種類 (人)

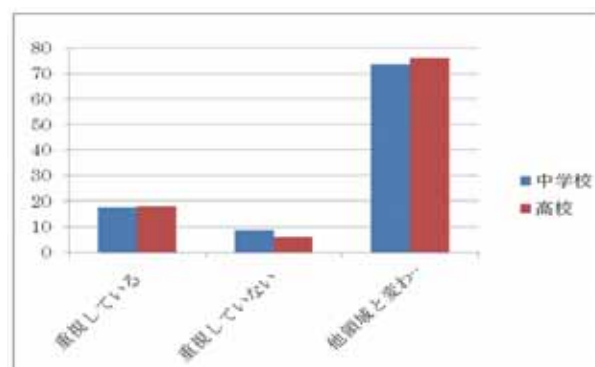


図3 ダンスを体育の中で重視しているか (%)

が最も多い24%であることを考えると、必修化の影響をみることができるように思われる。

また、ダンス指導上で一番参考になるもの（表2）については、ビデオ等の映像資料と講習会での実践を多くの教員があげており、今後、授業実践を通して、普遍性のある教材開発を図ることの必要性がここからも窺える。

5) ダンスの教育的意義

ダンスの価値（表3）をどのようにみているかについては、中学校、高校ともに第1位に「仲間との共感の時間がもてる」ことを挙げている。

表1 指導の際に障害になること（創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス）

	内容	1 位	2 位	3 位
中学校	創作	生徒が動かない	自分で動いてみせられない	生徒の能力に差がある
	フォーク	生徒が動かない	踊り方がわからない	評価の仕方 男女教員構成
	現代的な	自分で動いてみせられない	生徒の能力に差がある	生徒が動かない
高等学校	創作	生徒が動かない	自分で動いてみせられない	評価の仕方
	フォーク	生徒が動かない よい指導資料がない	自分で動いてみせられない	
	現代的な	自分で動いてみせられない	生徒の能力に差がある	生徒が動かない 指導内容がわからない

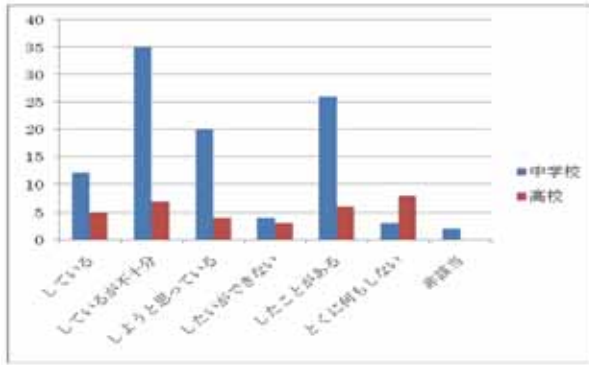


図4 ダンスの教材研究・指導法研修の有無(人)

「表現・伝達の喜び」、「心身の開放」、そして「感情を豊かにする」を含めて、スポーツや体操では得られないダンス独自の意義を授業の中でどのように展開していくか—そのことが、必修化にいたる理由として、文科省が示している「生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する視点から、多くの領域の学習を十分に体験させた上で、それらをもとに自らが更に探求したい運動を選択できるようにすることが重要」ということにつながっていくのではないかと考えている。

表2 ダンスを指導する上で一番参考になるもの(上位3位; 非該当を除く)

学校種別	順位	参考になるもの	割合
中学校	1位	講習会での実践	(35%)
	2位	ビデオ等の映像資料	(34%)
	3位	身近にいる先輩同僚友人等の指導	(10%)
高等学校	1位	講習会での実践	(37%)
	2位	ビデオ等の映像資料	(33%)
	3位	レッスン所での体験・大学時履修経験 身近にいる先輩同僚友人の指導	(7%)

表3 ダンスの価値(上位3位)

学校種別	順位	価値
中学校	1位	仲間との共感の時間がもてる
	2位	表現・伝達の喜びを体験できる
	3位	感情を豊かにする
高等学校	1位	仲間との共感の時間がもてる
	2位	心身の開放ができる
	3位	感情を豊かにする

なお、アンケート調査結果と研究発表会で報告された小中高実践事例の詳細は、宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要第36号(2013. 7)に報告する予定である。

(2) 公開授業及び研究発表会

- 1) 期 日 10月19日(金)
- 2) 会 場 宇都宮大学第2体育館
同 大学会館多目的ホール
- 3) 参加者 小・中・高・盲・聾・特別支援学校・大学の教員、社会体育指導者、学生等72名

4) 内 容

・公開授業

「小中高連携を意図した指導内容とその方法—典型教材「しんぶんし」を用いた1時間完結学習—」

授業者 宇都宮大学教育学部『ダンスA』受講生

指導者 宇都宮大学教育学部 茅野 理子

* 公開授業については、資料参照。



【公開授業1】
教師とともに課題練習：多様な動き(デッサン)→極から極への動き(デフォルメ)→ひと流れへ



【公開授業2】
学生がリーダーになって：ことばかけをしながら、模擬指導(回る、跳ぶ動きを加えて・メリハリ・オノマトペ)

・全体会 趣旨説明

- ① 宇都宮大学地域連携活動事業について
- ② 本県学校体育におけるダンス指導の現状と課題について—アンケート調査から—

宇都宮大学教育学部 茅野 理子

・研究発表

① 小学校部会

「楽しく多様な動きを生み出す表現運動の実際」 矢板市立矢板小学校 八嶋 純子

② 中学校部会

「創作ダンスの啓発と普及をめざして－小山市の取り組み－」

小山市立小山城南中学校 中野 恵子

③ 高等学校部会

「学習指導要領の改訂に向けて－宇都宮南高校の実践と今後の課題－」

栃木県立宇都宮南高等学校 影山あや子

④ 研究協議

⑤ 指導講評

栃木県教育委員会那須教育事務所指導主事

大江 満仁 様

【研究発表1】
小中高の各部会からテーマに沿った事例報告があり、各段階のねらいと学習内容を相互に確認。



【研究発表2】
質疑応答では、学生からも積極的な発言があり、各教育現場と学生が学び合う場ともなった。



なお、小中高の各テーマは、表4の4・4・4の発達の括り（村田、2007）に沿って設定した。

表4 4・4・4の発達の括りによる表現運動・ダンスの発展

小学校低・中学年	小学校高学年・中学1・2年	中学3年・高校3年間
いろいろなりズムや表現の遊びを体験して、多様な身体感覚やコミュニケーションの基礎を身に付け、踊りが好きになる段階	いろいろなダンスを体験して、それぞれのダンスの特性（楽しさや魅力）に触れる段階…中学1・2年までダンス必修化	好きなダンスを選び、時・場所・仲間に応じてダンスを再構成・創造してダンスの特性を深める段階…選択制への移行
楽しく多様な動きを生み出す表現運動の実際	創作ダンスの啓発と普及をめざして－小山市の取り組み－	学習指導要領の改訂に向けて－宇都宮南高校の実践と今後の課題－

(3) 参加者からの感想（一部、抜粋）

参加者からは、以下のような感想が寄せられた。

- ・小学校・高校の実践も非常に参考になるものがあり勉強になった（中学校教員）。
- ・1 カテゴリーから次のカテゴリーへ移行する時の「流れ」または「つなぎ」を強化するためにも、各カテゴリーでの情報の共有は大変有意義だと思った（高校教員）。
- ・授業そのもの、そして小学校でも活用できそうな題材だった。とても参考になる（小学校教員）。
- ・今回の研究の趣旨やアンケート結果からの考察がよく分かった。特に指導者側の実態を知る機会となった（中学校教員）。
- ・小・中・高・大学、それぞれの学校種が担う役割、特色がはっきりわかる、その連携の重要性がよく伝わるすばらしい研究会だった（中学校教員）。

参考文献：

- ・全国ダンス・表現運動授業研究会編（2011）明日からトライ！ダンスの授業，大修館書店
- ・村田芳子（2007）表現運動・ダンスの学習内容について考える．体育科教育55（5）：35－39.

謝 辞

アンケートにご協力いただいた栃木県公立中学校並びに県立高等学校の先生方、当日実践報告をして下さった小中高の先生方、ご講評いただいた大江先生ほか関係の皆様にお礼申し上げます。

第4週 物を使って(2) 典型教材「しんぶんし」を用いた1時間完結学習

◆学習の目標

- ① 様々に変化する「新聞紙」の動きを真似して動くことで、自己の動きの開発を図る。
- ② 「多様な動き」と「動きの質」を引き出す指導法を体得する。
- ③ 1時間の授業の流れを把握するとともに段階に応じた指導のねらいとポイントを明確にする。

◆学習の進め方

	学習活動(分)	指導の要点とことばかけ
導 入	1. 本時の課題を確認する (5分) 2. ダンス・ウォームアップ (10分) ① 新聞紙キャッチ：一人で→二人で→グループで(クラップ1回…回って…) ② 2人組でチャンバラごっこ ③ 2人組でペアを捜せ!→1人で転がす追いかけて捕る ④ 大きく振る一大回り ⑤ 風を感じて走る 風になりたい/ THE BOOM	<ul style="list-style-type: none"> ・前回見つけた新聞紙を操作する遊びをつなげて1曲を動く(体ほぐしからダンスへ)。 ・新聞紙を広げたままで：みんなで息をあわせてキャッチ。相手のことを考えて新聞紙を離すよ。 ・筒状にして：相手に触れないように動く。 ・丸めて：必死で逃げるー追いかける。自分の体で窓を作ってそこから転がす。スライディングで捕る…。 ・広げて：もっと大きく振るよ。床につくくらい。 ・3往復。新聞紙の先が風になびくように。途中で跳んでもいいよ。回ってもいい。
展 開	2. 新聞紙の動きを真似して動く (30分) (1) 先生と一緒に課題練習をする 先生が動かす新聞紙の真似をして動く (2) 2人組で、リーダーを交替しながら、リーダーが動かす新聞紙の真似をする 第1段階(小学校低・中学年) ・走る、回る、跳ぶなどのおおまかな動きを想定して新聞紙を動かすー真似る 第2段階(高学年～中学校2年) ・「ひと流れ」を意識して新聞紙を動かすー真似る ・始まり方と終わり方を決める	<ul style="list-style-type: none"> ・(学生は座ったままで)新聞紙をよく見て。傾けるよ。揺らすよ。(うまく反応できたら)上手! ・床に置くよ。端っこペロン(持ち上げる)、もう片方もペラッ、ひっくり返すよ。回りながら立って。・飛ばすよ。新聞紙をよく見て、すぐに動くよ。床に落ちた新聞紙、どうなってる?どんな形? ・リーダーは自分でも動きながら。 ・ことばかけをしながら、新聞紙を動かそう。捻るよ、飛ばすよ、くしゃくしゃ、ピッ…。 ・いい動きは繰り返して。 ・もっと大きく動かせるかな。 ・捻る、回る、跳ぶ動きを入れてひと流れに。 ・メリハリ(極から極の動き)をつけて動かそう。低い位置から高く飛ばす、ゆっくり捻るー素早く回す…など。 ・始めはどこから?終わり方はどうする?
	3. グループで動きの交換をする (10分) 第3段階：群の動きへの発展 ・2グループ一緒に、1人がリーダー、3人が新聞紙 晴れた日に…(魔女の宅急便)	<ul style="list-style-type: none"> ・2人で見つけた面白かった動き、大きく動けた動きを交換しあう。 ・リーダーが動かす新聞紙の動きをみんなですぐに真似して動く。
ま と め	4. 評価 (5分) ・学習カードの記入	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで体験したことのない動きがみつかりましたか。 ・多様な動きが見つかるようにことばかけしながら新聞紙を動かせましたか。 ・メリハリをつけた「ひと流れの動き」がわかりましたか。